



KOKORO
意style

第107期 第2四半期報告書

2017年4月1日～2017年9月30日

ウルトラファインバブルクーラントシステム

当社では、産業界各方面からの切削・研削加工における「加工能率を今よりもっと上げたい」「工具の寿命を延ばしたい」等のご要望・お悩みに応えるため、ウルトラファインバブルクーラントシステムを開発し、販売を開始いたしました。切削・研削加工の際に必要な切削・研削液にウルトラファインバブル(直径 $1\mu\text{m}$ 未満の微細な泡)を発生させることで、これまでの機械の切削・研削(加工)能率がアップするとともに、工具の寿命も延びるという画期的な商品です。

 日本タングステン株式会社

企業理念

Our Corporate Philosophy

日本タングステンは、
世界の人々と従業員の
明るい未来を実現するために

- マテリアルからはじまる価値創造に挑戦し続けます。
- 常にNo.1を目指し、かけがえのない存在であり続けます。

行動規範

Our Way

- 私たちは、情熱を持って、失敗を恐れずチャレンジします。
- 私たちは、当事者意識を持って、すぐ行動しやり遂げます。
- 私たちは、相手の立場になって、期待以上で応えます。



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社第107期第2四半期報告書(2017年4月1日から2017年9月30日まで)をお届けいたします。

当社は、本年4月に制定した新経営理念のもと、全社一丸となって業績向上に取り組んでまいりました。その結果、当第2四半期における増収・増益というご報告を株主の皆様へ行えますことを、大変嬉しく思っております。これからも真に価値ある商品の提供を通して世界の人々の豊かな暮らしと社会の発展に貢献し、会社を大きく発展させていくことで、株主の皆様のご期待に応えられるよう全力を尽くしてまいります。

今後とも格別のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月

取締役社長 後藤信志

全社員が一丸となり、 中長期的な成長に向けた改革へ取り組んでまいります。

Q 当第2四半期の決算のポイント等について教えてください。

製販一体となった拡販展開と生産性改善策の奏功により増収・増益を達成することができました。

当第2四半期における経済環境は、国内は企業の輸出及び雇用環境が改善するなど緩やかな回復基調で推移し、海外では、地政学的リスクの高まりなど不透明な状況があったものの、全体として緩やかな回復傾向が続きました。

このような環境の下、当社では、製販一体となって国内及び海外市場への積極的な拡販活動を展開し、注力市場の掘り起しや新規顧客への販売促進など、売上拡大に取り組んできました。また将来の事業拡大を見据え、重点分野への投資を積極的に行いました。

これらの結果、情報機器関連のハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板及び電子部品関連の金型製品が好調に推移し、当第2四半期の連結売上高は53億26百万円(前年同四半期比9.8%増、対計画比11.7%増)となりました。

また損益面では、売上増加による利益幅の拡大に加え、生産効率の改善へ向けた取り組みの奏功により、営業利益は3億37百万円(前年同四半期比49.6%増、対計画比46.5%増)、経常利益は為替差損が発生しなかったことも加わり4億90百万円(前年同四半期比154.5%増、対計画比75.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億71百万円(前年同四半期比278.8%増、対計画比95.3%増)となりました。

Q 現時点での通期(2018年3月期)の見通しについてお聞かせください。

下期は上期の業績に比べ弱含む見通しではありますが、積極的な拡販活動、生産効率の改善をさらに推し進め、年度計画の達成を目指します。

今後の経済環境は、地政学的リスクなどによる経済の下振れ懸念が残るものの、引き続き好調な環境が続くものと思われます。下期においては、衛生用品関連のNTダイカッターが必要回復を見込むものの、上期好調であった情報機器関連のHDD用磁気ヘッド基板がSSD(ソリッドステートドライブ)の切り替えにより、また照明関連のタングステンワイヤー製品がLED化の進展により低調に推移すると予想され、現時点では上期の業績に比べ下期は弱含む見通しであります。

以上のような環境予測の下、2018年3月期の通期業績予想(連結)としては、平成29年5月11日に公表のとおり売上高は99億円(前期比2.2%減)、営業利益は5億70百万円(同20.3%増)、経常利益は6億70百万円(同16.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は4億50百万円(同4.1%減)を計画しています。

なお、当社グループでは中長期的な成長に向けて取り組むべき4つの重点課題「人材の育成」「新技術・新商品の創出」「ものづくりの強化」「グローバル市場での拡販」を掲げ、本年度(2017年度)から2020年度までの4年間の中期経営計画(日本タングステングループ2020中期経営計画)の中で重点課題に対する基本方針を定めて、全社員が一丸となって取り組んでおります。下期においても引き続き先の基本方針に従って社員一同全力を尽くし、一層の企業価値向上を目指していく所存です。



Q 様々な展示会へ積極的に出展されていますが、その反響などはいかがですか？

各展示会での盛況ぶりやその後の引き合いの状況など、相応の手応えを感じています。

当社ブランドや製品認知向上の重要な場として、また、お客様の声から新たな商品開発の種を見つけるため、様々な展示会へ積極的に出展しています。当第2四半期では、「ウェルディング・フォーラム in 西日本」「第8回 医療機器 開発・製造展(ものづくりワールド2017)」「難加工技術展2017」に出展しました。

また直近では、国内最大級の工作機械見本市「メカトロテックジャパン2017」に出展しています。当社ブースでは、自動車/航空宇宙/二次電池業界向けに「混ぜる」「塗る」「切る」「送る」「つなぐ」の各工程で使用される当社製品を展示しました。

今回その中でも来場者・業界関係者から注目を集めたのが、本年9月に販売を開始したばかりの「ウルトラファインバブルクーラントシステム」(詳細はP4ご参照)でした。実機デモでは、大変多くの方々に「ウルトラファインバブルクーラントシステム」の革新性や高い機能性を見ていただくことができました。いずれの展示会でも常に多くの方々にご来場いただき、その後の商談や引き合いをいただいております。

今後も、医療分野や二次電池分野を中心に展示会への出展を行い、一層の拡販につなげていきたいと考えております。

Q 株主還元の状況など、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当初計画から1円増配となる1株当たり3円の間配当を実施させていただきました。

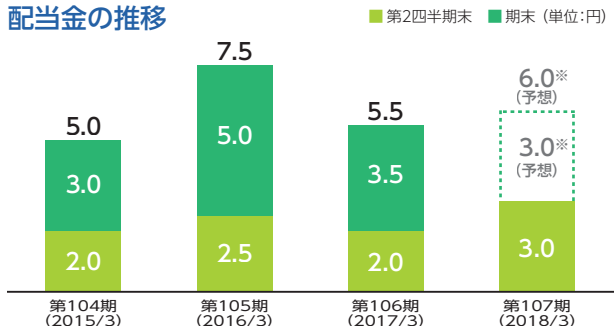
当社は株主の皆様への利益還元について、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安に、新商品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な財務体質の強化等を勘案しつつ、安定的・継続的な配当に努めております。

上記の方針及び当第2四半期連結累計期間の業績を勘案し、中間配当につきましては、当初計画の1株当たり2円から1円増配の3円といたしました。

また、当社では、2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しています。これを考慮した期末配当金は、1株当たり30円を計画しています。なお、株式併合を考慮しない場合の期末配当金(予想)は1株当たり3円となり、1株当たりの年間配当金(予想)は6円となります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

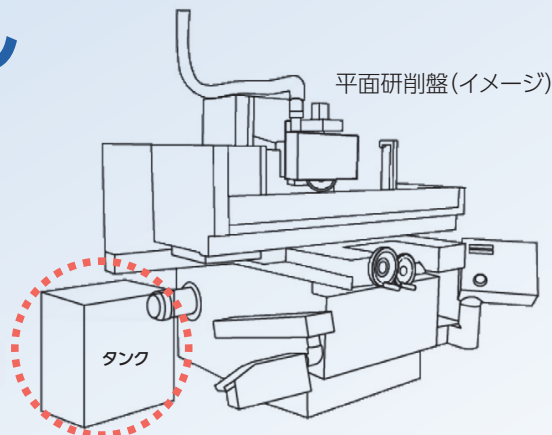
配当金の推移



※当社は、2017年10月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。このため2018年3月期(予想)期末の1株当たり配当金は30円となりますが、株式併合を考慮しない場合の1株当たり配当金は3円となり、1株当たりの年間配当金は6円となります。

見えない泡が加工を変える！ 様々な産業機械が驚きの高効率へ！

ウltraファインバブル クーラントシステム



「ウltraファインバブルクーラントシステム」は、導入先のユーザビリティにも最大限に配慮し、既存の加工機に接続するだけで使用可能な設計になっています。この点もお客様から高い評価を受けています。

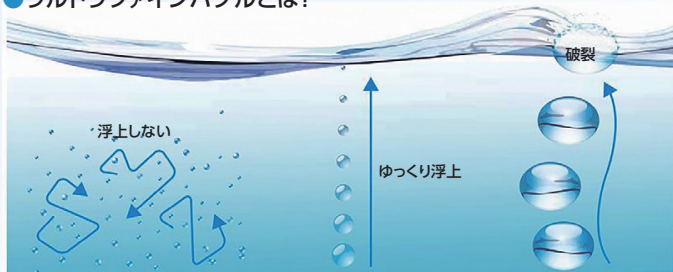
加工能率を今よりもっと上げたい、工具の寿命を延ばしたい、砥石のドレスインターバルを長くしたい、加工機の増設スペースがない等といった、産業界各方面からのご要望・お悩みに応える新製品「ウltraファインバブルクーラントシステム」をリリースしました。

ウltraファインバブル効果により、研削能率は1.5倍以上・切削能率は1.4倍(※)以上に改善。またウltraファインバブルのクリーニング効果と冷却効果で、砥石の寿命延長と臭気防止を実現しています。

本年9月リリースとまだ間もないですが、様々な産業分野からの引き合いをいただいております、さらなる市場開拓が期待できる戦略的製品です。

(※) 当社所有の研削・切削加工機を使って、超硬・スチール材を加工(平面研削、端面切削)した場合の研削・切削(加工)能率になります

●ウltraファインバブルとは？



ウltraファインバブル	マイクロバブル	ファインバブルより大きいバブル
直径:1μm未満 微細な熱運動の為に浮上せず 消滅しない	直径:1~100μm未満 浮力の為にゆっくりと浮上し やがて消滅する	直径:100μm以上 発生とともに浮上してしまう

「ファインバブル」は、我々が日常目にする泡よりも小さい泡です。具体的には直径0.1mm(100μm)より小さな泡を「ファインバブル」と呼びます。さらに1μm~100μmを「マイクロバブル」、1μm未満を「ウltraファインバブル」と呼び区別しています。

「マイクロバブル」は水が白く濁ったようになり目で確認できますが、「ウltraファインバブル」は肉眼で見ることができない大きさです。この呼称も国際基準として制定されようとしています。

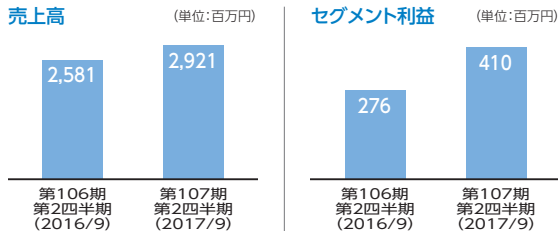
(出典：一般社団法人 ファインバブル産業会「ファインバブル産業会のご案内」)

事業別の業績概要

機械部品事業

衛生用品関連のNTダイカッターが国内/海外市場ともに減収となりましたが、情報機器関連のハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板は、HDD需要の回復により増収となり、装置関連も国内市場で増収となりました。

この結果、機械部品事業の**売上高は前年同四半期比13.2%増の29億21百万円**となり、**営業利益は同48.6%増の4億10百万円**となりました。



●超合金製品
売上高 **1,859百万円**



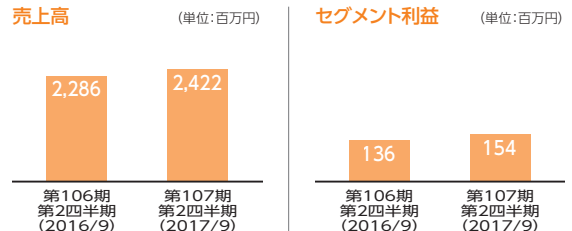
●セラミック製品
売上高 **1,062百万円**



電機部品事業

自動車関連の接点製品は、EV用接点が在庫調整により減収となりましたが、電子部品関連の電極製品は、国内/海外市場ともに好調で増収となりました。

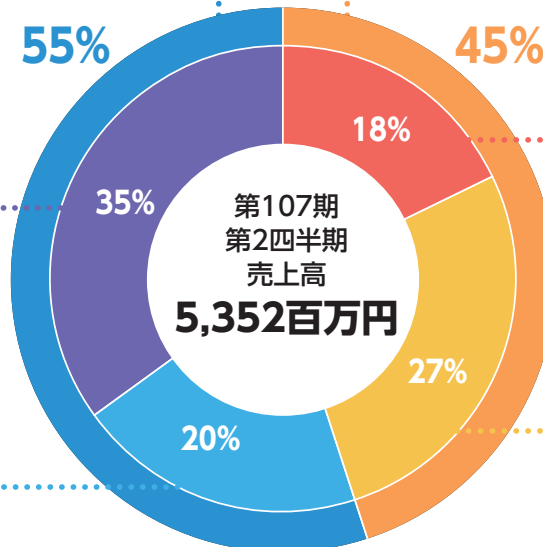
この結果、電機部品事業の**売上高は前年同四半期比6.0%増の24億22百万円**となり、**営業利益は同13.4%増の1億54百万円**となりました。



●金属材料製品
売上高 **948百万円**



●電気・電子材料製品
売上高 **1,473百万円**

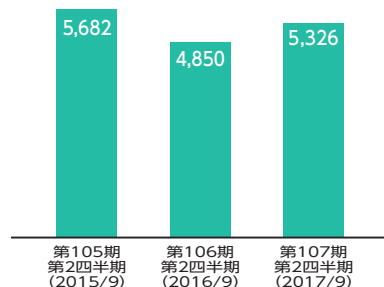


(注)売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額です。

業績等の推移

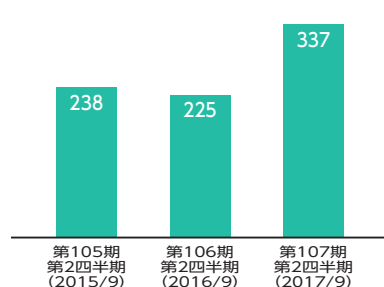
売上高

(単位:百万円)



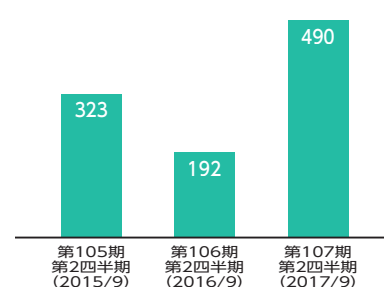
営業利益

(単位:百万円)



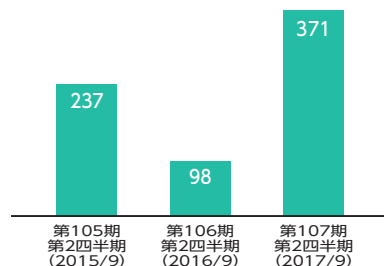
経常利益

(単位:百万円)



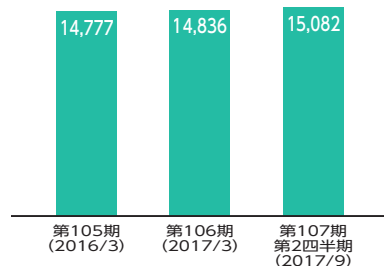
親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位:百万円)



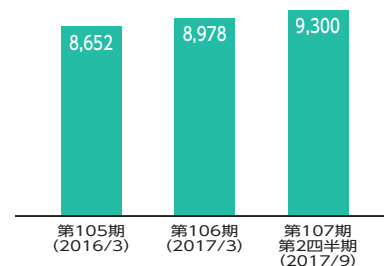
総資産

(単位:百万円)



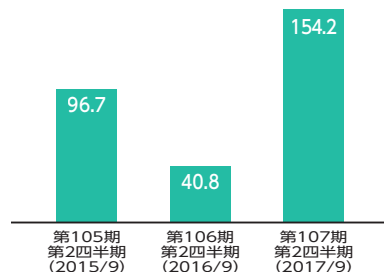
純資産

(単位:百万円)



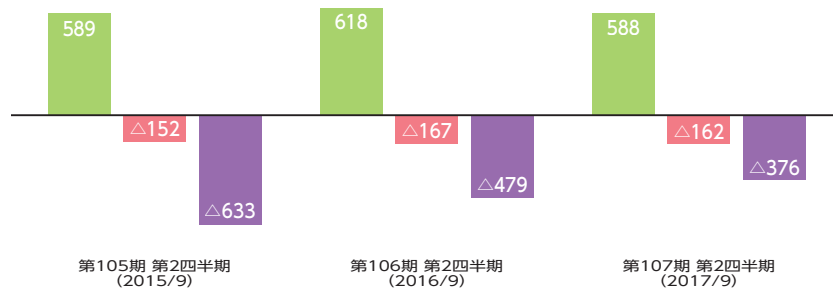
1株当たり四半期純利益

(単位:円)



キャッシュ・フローの状況

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー ■ 財務活動によるキャッシュ・フロー (単位:百万円)



会社の概要

2017年9月30日現在

設立	1931年(昭和6年)4月1日
資本金	25億950万円
従業員数	495名(連結)
本社	福岡市博多区美野島一丁目2番8号
事業所	支店：東京・大阪・名古屋・九州 工場：基山・飯塚・宇美

役員

2017年10月1日現在

取締役社長	後藤 信志	代表取締役 社長執行役員
取締役	徳本 啓	常務執行役員
取締役	大島 正信	執行役員
取締役	毛利 茂樹	執行役員
取締役	坂口 茂也	
社外取締役	伊崎 数博	九州電力株式会社代表取締役副社長
取締役	田中 和昭	監査等委員(常勤)
社外取締役	小島 庸匡	監査等委員 小島公認会計士事務所代表
社外取締役	斉藤 芳朗	監査等委員 徳永・松崎・斉藤法律事務所代表弁護士
	山崎 洋	執行役員
	三島 彰	執行役員

関連会社

■ 連結子会社 ■ 持分法適用関連会社

国内	■ 株式会社昭和電気接点工業所 ■ 株式会社福岡機器製作所 ■ 株式会社エヌ・ティーサービス
中国	■ 上海恩梯三義美業発展有限公司
アメリカ	■ NIPPON TUNGSTEN USA, INC.
イタリア	■ NIPPON TUNGSTEN EUROPE S.r.l.
タイ	● SVニッタン株式会社

株式の状況

2017年9月30日現在

発行可能株式総数	100,000,000株※
発行済株式の総数	25,777,600株※
単元株式数	1,000株※
株主総数	3,428名

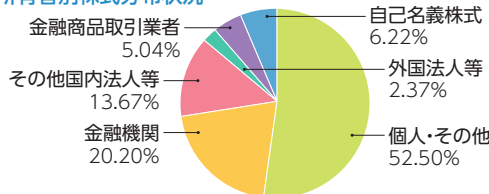
※2017年10月1日をもって当社株式の単元株式数が100株に変更となりました。また同時に当社株式10株を1株に株式併合し、発行可能株式総数は10,000,000株、発行済株式の総数は2,577,760株となりました。

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
九州電力株式会社	1,666	6.89
株式会社福岡銀行	1,072	4.44
日本タングステン従業員持株会	876	3.63
日本証券金融株式会社	699	2.89
日本タングステン取引先持株会	669	2.77
株式会社SBI証券	661	2.73
みずほ信託銀行株式会社	643	2.66
明治安田生命保険相互会社	601	2.49
株式会社西日本シティ銀行	509	2.11
株式会社佐賀銀行	500	2.07

1. 持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。
2. 上記の他、自己株式を1,602千株(6.22%)保有しております。
3. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

決算期	3月31日
基準日	定時株主総会、期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要あるときはあらかじめ公告して定めます。
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京(2部)、福岡
証券コード	6998
公告方法	当社のホームページ(https://www.nittan.co.jp/)に掲載します。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

株式事務手続きに関するお問い合わせ先

●証券会社等に口座をお持ちの株主さま

住所・氏名等、届出事項の変更 配当金受取方法の変更 単元未満株式の買取請求 等	お取引の証券会社等までお問い合わせください。
未受領の配当金の お受取について	下記株主名簿管理人(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。

●特別口座をお持ちの株主さま

各種手続き等	下記特別口座管理機関(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
--------	---------------------------------------

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

みずほ信託銀行 証券代行部

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

☎0120-288-324 (受付時間 土・日・祝日を除く9:00~17:00)